

「2025 ファン・サポーターカンファレンス」議事録

■日時：2025年1月26日（日） 13:30～15:30

■場所：富山県総合運動公園陸上競技場 会議室

筆：事業部 矢野稚香子

【事業方針等説明 / 左伴繁雄 代表取締役社長】

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。先日の新体制発表会でビジョン2025の話をしていただきましたが、今回は同じ話をするのではなく、チームの中や裏の話をして、皆さまに今シーズンがっつりと応援していただけるようなお話をさせて頂こうと思います。



まず新体制発表の時にメンバーを見ていただいたと思うのですが、パッと見てすぐわかるのは、ずいぶん人数が増えたなということでしょう。今シーズンのカターレ富山には36人の選手がいます。昨シーズンは31人でしたので、5人増えました。9人の選手がいなくなって新しく14人が入ってきてくれました。そのうち5人の新人が大学卒と高校卒です。後ほど強化担当の遠藤が話すと思いますが、これは相当多い人数です。

ただ我々は全員が戦力で。いわゆるサブチームというものはうちには無いのですが、紅白戦を行ったりすると、Aチーム・Bチームがそれぞれ11人で、途中でメンバー変えて試し

たりしたとして両チームに3人か4人ぐらいが必要になるので、合わせて30人ぐらいですよ。36人だと試合に絡めない選手が6~7人出てきてしまう計算になります。

ただリーグ戦だけではなくて、今年はルヴァンカップも天皇杯もあります。そこに若い新人選手に出番を与えると、J1やJ2から来た選手たちよりも弾けてくれる。もちろん強化部長の遠藤には「ターンオーバーでも良いけど、勝ちに行けよ」と。それは絶対だと伝えていますが、それでも昨年カターレ富山は結果が出ましたよね。その関係もあって人数が少し多めになっています。

高校選手権の決勝まで頑張っていた亀田選手もそうですが、上のカテゴリーに入り、ベンチに入れるかどうかわからない状態になるのだったら、下のカテゴリーでスタメンを狙うというのは最近のトレンドです。亀田選手もそれでカターレ富山を選んでくれました。だからカターレ富山を馬鹿にしているわけではなくて、自分がやっているサッカーで通用するかしないかっていうのを本気で考えた上で選んでくれたと思います。

今年の大卒の選手もみんなそうです。今年の新人は、去年の大卒選手をみんな見てきます。西矢選手は後半戦ずっとスタメン出場で、瀬良選手もボランチで生き生きとしたプレーをしてくれました。高橋選手はファンタジスタという感じで、碓井選手は言うに及ばず。みんな素晴らしかったです。だから、新人でもここまで活躍できる出番を与えてもらえるのだと思ったら、みんな来てくれますよね。なので、J1から声がかかっていた選手もいましたが、カターレ富山を選んで入ってくれました。

そして補強についてです。プレーオフが終わってから動いたので、ほとんどトゥーレイトです。他のクラブはすでに全部動いていたので。特に今回、僕の方でこだわって伝えていたのは、サッカーのスタイル変えるな、上手い下手ではなく今のやり方で行けと。これだというスタイルよりも熱量のある、強度のあるサッカーをやろうと。相手と戦って勝つサッカーをやってくれ、ブレずにやってくれということを言っていました。そして最後に言ったのが、今より点を取れるようにしてくれということです。

うちの得点は後半30分過ぎが一番多いのですが、半分は選手、半分はファン・サポーターが取らせてくれたと感じる事が結構多かったですよ。でもそうではなくて、「俺たちが取ったんだ」と言える得点をちゃんと取ってほしい。だから、あと1点を見込める、読めるストライカーを取ってくれと。ここはJ2に昇格してからでないと多分無理だと思ったので最後に回せと言ったのですが、遠藤に「センターバックとFWが一番人気のポジションなので動かしてください」と言われました。

11月の中旬からプレーオフに入ってからずっとやきもきしていました。その頃は昇格するかも分からない状態でした。J3だったら3.5億円、J2だったら4.5億円プラスアルファの予算組をしておりました。結果的に今4億8000万で予算を組んでいるので、そのプラスアルファ1億円の強化費の中でFWを獲得しています。もしJ3のままだったら、今このチームにはいない選手がいます。あるいはこの選手の代わりにFWはこの選手だったなという感じになっています。例えば松田選手や武選手などは、J2になった瞬間にもう絶対取りにいくぞと。カターレ富山には10点以上ゴールを決める選手がいなかったの、J1を狙おうとしたら点を取りにいく選手が必要なわけです。守備は良くなってきているので、碓井選手とプラスアルファで核になる選手を、点を取るところに資金をかけなきゃダメなのだと、プレーオフ決勝でファン・サポーターの皆さま方に勝たせて頂いた瞬間からバーっと動き出したのが、現在いるFW陣です。

そしてGKの大久保選手ですが、当初GKは3人で行こうかなと思っていました。でも、まとめ役として翼一人に負担かけるわけにもいかないし、渋い“いぶし銀”の経験者がカターレ富山には必要だと思いました。西部洋平からもお墨付きをもらっていたのと、私もよく知っている選手だったので連絡を取ったのですが、富山のためにと行って来てくれました。J2に上がって、さっきの1億円が、プラスになった関係で出てきたと。なので今回のチーム編成は段階を追って進めていきまして、最終的に人数が増えてしまったという事です。

ここから36人でやっていくのか、そうではなくレンタルである程度考えながらやっていくのかはキャンプを通じて、あるいはチームの状況を見ながら、遠藤たちとお互い判断していくという事になっております。プロセスを踏んだ結果のこの人数ということをご理解いただければと思っております。

昇格が決まったあの日は、皆さん泣いて喜んで飲みに行ったと思うのですが、僕は憂鬱になってきてしましまして。それを新田知事に「もっと笑いなよ」と怒られてしまいました。言い訳でもなんでもなくて、憂鬱になってしまった原因は、カテゴリーに関係なく昇格する場合、1つ目に上がるに値する会社のサイズにすること、2つ目に強化費の規模を大きくすること、そして3つ目にめちゃめちゃ熱い応援を受けるようにするということが必要です。

強化費に関しては先ほど触れました。熱い応援を受けるという点では、今まで4つのクラブをやってきて言える事は、カターレ富山の応援は大合格なのです。これをJ1の昇格争いしている時もこの応援をもらえたら選手は半端なく動けるなと思います。だからブレないサッカー、小田切監督はこのサッカーしかないっていうのをずっと提示し続けています。相手によって長いのを蹴ったり、刻んでいったりするので、「相手の傾向と対策みたいなんじゃないの?」と感じる人もいますけど、関係ないです。切り替えのところをベー

スにして、守備の連携をきっちりやって、あとは状況を見ながら選手が判断する。もうこれがサッカーの基本的な王道です。今言った原理原則だけでやっていけば、ある程度、結果が出ます。

そして会社のサイズについてです。最終戦の時に、大営業本部長の齋藤が「早く J 2 に行った時のスペックを固めていかないといけない」と。大体は大口さんがどこまで出してくれるかという感触を掴むと、サイズが見えてくるんですね。齋藤は YKK と北陸電力の担当でして、当時プレーオフの決勝は YKK の大役も現地に見に来てくれましたし、北陸電力さんもみんなが応援してくれました。大変ありがたいことに私どもの要望通り、昨年度の倍以上の増額がある程度見えました。

そして昨年度は皆さんが増収を本当に助けてくれました。スポンサーさんが増えたこと、スポンサー費の増額ももちろんあったのですけれども、やはりサポーター皆さん個人のお金に助けられました。ありがとうございます。

今年は、逆にルヴァンカップもプレーオフも予算外収益を得られる勝ち進みがない可能性があります。皆さんが一生懸命お金を出してくれても、去年より…ということはルヴァンカップやプレーオフで勝ち進まない限り現状難しいです。ルヴァンカップとプレーオフを除くリーグ戦で、去年と同じぐらい皆さんがお金を出してくれると想定し、法人さんのトップツ、それに北陸銀行さんやアイザックさんを始めとするユニフォームスポンサーさんが軒並み増額をしてくれまして、11 億から 12 億円ぐらいのクラブ規模になる見込みです。

今シーズンの目標は一桁順位と言いましたが、今回の大増額によるクラブ規模感ですと、過去 10 番以内に入ったクラブの規模感と比較するとチャンスは十分にあるなど。そうすると目標はやっぱり気合いの入った一桁順位になっちゃうなというのが今回の見解です。最終戦の時に入ってきた情報を全て勘案すると、この規模感で J1 に上がったクラブが 3 つも 4 つもある。そうすると、真面目にどう 9 番以内に入るかを考えていかないといけないです。

昇格が決まったあの時点で、皆さま方に「次は J 1 昇格だね」と言っていましたけど、本気でこれから上がることを見据えて、それが今年なのか、来年なのかどうかは別にしても、比較的速やかに上がっていくために、さらにまた手を打たなきゃいけないことが結構あるんですね。それを考えるとカタレは 3 年もかかってしまいましたけど、J 2 に落ちた清水を J 1 に戻した、この生みの苦しみをもう一度やるのかなって思っています。

そのためには最初の 5 試合でチームがいかに勝点を積み上げられるかが大事になってき

ます。最初の 5 試合でチームは勢いづく。それにはホームの雰囲気も大事で、初戦で昨シーズン昇格をした時のような歓喜の渦なってくれるかどうか。ここが肝です。去年の最終戦や、その前にも負けてしまいましたけどラストワンプレーで途中から入ってきた吉平選手が同点ゴールを決めてくれた時とかね。最初の 5 試合で絶対負けないという信念、そこを覚えておいてください。そこをうまく乗り切ると、波に乗っていきます。

昇格したばかりのチームはあまりスカウティングされていません。実際に戦ってないクラブとの戦いになるので、すごくアドバンテージがあるんですね。我々はサッカーの基本のところでは戦っているんで、そこまで崩れないサッカーをやっていると思っています。一方で、相手はカターレ富山の強度を知りませんのでチャンスなんです。最初の 5 試合でチームを暴れさせてあげられるかどうかというところ。それは私たち内側の人間だけでは到底できなくて、ファン・サポーターの皆さんがアウェイに来てくれるか、3 試合目のホームに、真面目な話、1 万人以上来てくれるか。そういったところにかかってくると思っています。そしてシーズンエンドに「あの時の 5 試合で俺ら波に乗ったよね」って皆で言えるようになれば最高です。

昇格したクラブで何回も言っているのは、この頭の 5 試合の事なんです。そこを皆さんとぜひ共有していただければと思います。また今日こういう日に限らず、タイミングが合えばいつでもお話ししますのでよろしくお願いします。



【遠藤善主 強化部長】

皆さんこんにちは。今日はお集まりいただきありがとうございます。1月13日からキャンプがスタートして1週間が経過し、見える事も増えました。お越しいただいている皆さんは、やはり新加入選手の状況を一番知りたいと思いますので早速ではございますが、お話ししていきたいと思います。

吉田新選手：昨シーズンまで共に戦ってくれました安光選手とは違うタイプの左サイドバックです。左利きの選手で、昨日の福山シティとのトレーニングマッチでも、30分だけの出場でもスプリント回数が10本なんです。これはもうかなり高強度の高いプレーができると思っておりますので楽しみにしております。

松田力選手：松田選手は背番号10。万能型FWで、得点能力が高い選手です。J3時代に対戦していますのでサポーターの方も知っている方は多いのではないのでしょうか。経験値が高く、もちろんJ2でのプレー経験も豊富です。苦しい時に何とかしてくれる、そういう期待感を持った選手かなと思います。

深澤 壯太選手：ガンバ大阪ユース、大阪桐蔭高校を経て、中京大学卒業の SB です。両サイド可能な選手で、関わりながらの攻撃が特徴的です。技術を活かした攻撃参加からゴールに結びつける事に期待しています。

浦 十藏選手：浦選手は、チームトップクラスを誇る抜群のスピードと突破力が特徴です。昨年はルヴァンカップや天皇杯で試合をした神戸でプレーしており、シーズン途中からは開幕で当たる愛媛に移籍しました。開幕戦では古巣と当たりますので試合に絡めるような気合が入っています。

大久保 生：社長からも先ほど少し話がありましたが、キーパー4人体制にし、若い選手が3人います。そういった中で現在、キャンプトレーニング見っていますが、プレーや練習態度など色々な意味で見本となる選手です。またゴールを守るという部分では、その3選手の中でもかなり高レベルだと思います。

亀田 歩選手：J-GREEN 堺のキャンプの最終日頃に合流しました。昨日の練習試合にも短い時間でしたが出場し、トップスピードは亀田選手が一番早かったです。高校選手権もご覧になられた方もいますけどカットインからのシュートだとか、ゴールまでチャンスメイクする力は十分あります。現在は少年のような体格をしていますが、加入前から常に見てた選手ですので、かなり期待しております。

コ ボンジョ選手：ボンジョ選手は、韓国籍のキーパーなんですが、ゴールを守るころのテクニックが非常に高い選手です。そしてサイズ感も 190 オーバー。まだ若いですし伸びしろもあります。彼の加入で非常にキーパーのレギュラー競争が激化したと思います。

溝口 駿選手：溝口選手は新卒です。現在、左のサイドハーフを予定しております。今は少し膝の調子が悪く、練習に入ったり入らなかったりの状態なのですが、ひどい状況ではないのですぐ戻ってくると思います。左サイドからカットインして、右足のシュートの威力が多分チーム No.1 ですね。松岡選手の逆バージョンみたいな感じで思っただけだとイメージが付きやすいのではないかと思います。シュートの大きさの強さと、コース選びはかなり J2 でも通用するのではないかなと思っ期待しております。

竹中 元汰選手：我々の仲間である元カタレの中田洋平が監督をしています関西福祉大学の選手です。実は、我々が4年前から追っかけていた選手で、非常にいいなと思う選手です。今までの我々に足りなかった前への縦パスが、今いる既存のボランチ選手の中でも一番高精度ではないかと思っ期待している選手の1人です。

竹内 豊選手：竹内選手は、184 センチの新潟明訓・法政大学の選手だったこともあり、中学校の頃からチェックしていた選手です。試合中に体をぶつけて勝負したり、跳ね返したりするところの体の強さを期待しております。技術の部分はこれから J 2 のレベル、プロのレベルに達しているようにトレーニングしてもらおうと期待を込めている選手です。

酒井 崇一選手：京都サンガユース・東海大熊本そして、ロアッソ熊本・ザスパ群馬とずっと見て来ている選手の 1 人です。ディフェンスラインでリーダーシップが取れる選手で、ビルドアップ能力も高くサイズもあって、スピードがあります。なので、前に出て攻撃に絡み、そして守るときは後ろをカバーする DF ラインのリーダーになれる選手だと我々は思っております。

植田 啓太選手：マリノス出身ということで、植田選手もまた子供の頃、アンダー世代から見ている選手の 1 人ですが、技術が非常に高いです。去年は相模原に所属しておりプレーを直接見る機会がありましたがそれを間近に感じました。なので、今年は非常にボランチの競争が激化するのではないかなと思っています。

武 颯選手：以前カターレ富山に在籍しており、戻ってきてもらった選手です。皆さんもよく知っていると思いますが、私が気に入っているところはやはりゴールを意識したプレーですね。シュートを打つ・ゴールを決めるという能力、そしてゴールへの意識が非常に高い選手だと思っております。

濱 託巳選手：フィジカルの強さ、そしてオーバーラップ、守備での一対一の対応。そういったバランスが非常に取れた選手だと思います。濱選手は沼津では左サイドバックを主にやっていましたが、右も同じようにできるんですね。なので、左右両方プレーができる選手として期待しております。

【ここからは遠藤強化部長に対しての質疑応答】

※一部非公開にさせていただきますご質問もございました。予めご了承ください。

Q.練習試合を既に 2 試合行っていると思うが、現段階で遠藤強化部長の目から見て、この選手のココがすごいや、光っている選手を教えてください。

A.新人が面白いですね。今持っているものがしっかり出せているかなという感じがします。全員が今、必死にレギュラーもサブも決まってない状況で非常に頑張っている最中なので開幕戦を楽しみにしてください。

Q.去年の夏から長期離脱している川上選手の怪我の回復具合等、復帰の目処が大体立ってきてるのか教えてほしい。

A.メディカルチームと本人と相談しながら、既にピッチに入れて少しボールを蹴っている状況になってきているので、このまま上手くりハビリが進んでくれるといいなと思っています。やはりセンターバックの一員として非常に能力が高いので、早く復帰してもらいたいと期待しております。

Q.終盤戦だと大山選手と椎名選手が怪我をされたと思うんですが、2名の今の状態と他の選手に怪我人がいないか教えてください。

A.大山選手・椎名選手共にボールを蹴り出したところです。椎名選手の方が復帰が少し早いかもしれません。他の選手も大きな怪我や長期離脱が見込まれる選手は現状いません。

Q.他クラブの補強を見ると結構外国籍の補強が多い印象を受けます。マテウス選手が退団した状態ですが、今後外国籍選手の獲得は検討していたんでしょうか？

A.現状、いろんな選手をチェックしている段階です。

まだまだ富山に帰れませんけれども、選手と一緒にチームなどしっかり鍛えて、いいプレーがお見せできるようにキャンプを続けていきたいと思っています。富山での開幕にぜひお越しただいて、みんなと会えるのを楽しみにしております。また選手を応援してあげてください。よろしく申し上げます。

【全体質疑応答】

Q.ライカくんにもアウェイ戦遠征に行ってほしい。アウェイ専用のライカくんのユニフォームを作って欲しい。

A.(事業部篠崎)予算との兼ね合いもございますので検討いたします。また、ユニフォームに関しましては現在発売しておりますユニフォームにオリジナルナンバーでライカくんの名前を入れられますので、購入する際にネームを「ライカくん」とオーダーしていただければと思います。

Q.チケットの値付けに関して、正直安過ぎるような気がしています。まだ上げられると思っていて、今後もう少し値上げを考えられた方が良くはないかなという印象を持

っております。また、個人スポンサーですが、特典をもう少し特別感のある内容、プレミアム体験を加えていただけたら、もう少し頑張れるのではないかなと思っております。

A.(社長)まず、チケットに関してお話します。本当に有難いことにサポーターの皆さまから、まだまだ安いというお声をいただいております。業界ではチケット単価が 1,500 円以下というと、下から 5 番目ぐらいの価格帯です。私が思い描く業界に追いつくために、来年以降もう 1 段階値上げをしなければいけないと思っております。ただリピーターを増やすために実際のところ恐る恐る上げているという現状です。

個人スポンサーに関しまして。相対的に比較すると J 2 に上がると、他のクラブのお客サービスの変数やお金をかけた方がやはり協賛いただける方が増加します。他のクラブもよく見た上で色々なものをご提案していかないといけないという話を社内でやってきている中で、個人スポンサーの方からそういうご意見を頂戴したというのは私の頭の中にしっかり残しておきます。あとは社内の問題として、皆さまから様々なご意見を頂くのですが、現在フロントスタッフ 14 人で回しています。営業部隊もチケットも広報も人員が少なく、他のクラブでこんな事は無い状態です。J 2 になると規模も増えますが、仕事の量もより増えます。皆さまのお声をより受け取る為にも、さまざまな展開をするにも、早急に間接の運用を多くとって、人を雇わなきゃいけないと思っています。私は、戦うのはトップチームだけじゃなくてプロのサービスも同じだという意識で見えていますのでそういうご意見は沢山いただければありがたいです。

Q.長野県松本市に出張する機会が多く、松本の街をよく歩きます。松本山雅がどうしてこれだけお客さん集めていくのかといつも疑問に思っていました。松本市は「私達の町には松本山雅 FC がある」というフラグを通りにずっと立てまして、それから駅前の店舗全てに松本山雅のポスターが貼ってあり、松本市が一体となりクラブを応援している印象を強く持ちました。やはり富山市の発信地は富山駅だと思いますので、営業強化をされて、「我々の街にはカタレ富山」があるということ、県外の人、それから富山市民に訴えかければ、もっともっと営業し、利益が上がってくるのと同時に、サポーター増加に繋がると思います。様々な規制はあるかとは思いますが、やはり経済効果ということを考えれば、富山市一丸となってカタレ富山を応援していただきたいと常々思います。

A.(社長)おっしゃる通り、松本山雅や浦和レッズなど、街をあげてという印象をもっています。松本には他のスポーツに比べ松本山雅のサッカーの認知度もあり、どんどん巻き込んでいって今があると思います。そこに行政がというのは実は最初からではないんです。少しずつ広がっていき、そういうムーブメントが起きて、これは市民の人もお金使っても納得いただけるなど行政が思いました。やはり初めの一歩というのは、熱心に応援しているサポータ

一の人たちが動かしているんですね。それが今に繋がっていて、それを感じた行政も動き、街全体で盛り上がっているんだと思います。

例えば、旗を立てましょう。ポスターを貼りましょう。など、街を動かすとなるとさっきお話させて頂いた通り、14人のフロント社員だけじゃ絶対無理だなと思います。もちろん行政の方や市役所の皆さんともお話させて頂くこともありますが、まだまだ足りないと思います。今後考えていかないといけない事も沢山ありますが、メディアの皆さんが一生懸命映像や活字で県民に伝えていただき、これだけの喜びがありましたなど富山の方へ、カターレ富山の名前は伝わってきているとは思いますが。

ただ、先ほどお伝えしたフラッグが立ち、ポスターをあちこちに貼られ、商店街は試合のない日もカターレ富山の名前が並んでいる風景を見るためには、まだまだ足りないなと感じています。それは初めの一步をしてくれる皆さんや、ファン・サポーターの人たちが、大切になっていくんです。我々の社員だけでは到底足りません。また富山県にはカターレ富山以外に沢山のスポーツがあります。ですので、すぐには市内を真っ青には出来ないかもしれませんが。サポーターの皆さまにもご協力いただきまして、まずはスタジアムを真っ青にして、試合が終わったら街に繰り出し、試合を見て感動したとかね。ワクワクの感情というのを飲食店やメディアで伝えて頂ければ、飲食店の人たちが例えばカターレグッズを身に着けている方にご来店いただければ10%引きにしようなどという動きに繋がり、自然と街中にカターレ富山の名前が増えてくる可能性もあります。実際に松本山雅もそういう動きをしているかと思っています。そういう草の根の動きがメディアさんに取り上げられて、それで県や市が動いていくんです。そういう順番なんです。それを今年はJ2に上がったのでチャンスはいっぱいあると思いますから、クラブも一丸となって行っていきたいという気持ちは持っています。

Q.駐車場について今シーズンもプレーオフのように有料化しますか？

A. (ホームタウン営業部浅野)駐車場のことについてお答えします。2024シーズンが来場者数が8,200人、それから9,700人という試合がありまして、近隣の路上に駐車するですとか企業さんの敷地内に駐車するといった、そういった問題が起きました。10月6日の今治戦で特に問題視されまして、警察それから近隣の自治会に出向いて謝罪をさせていただき、プレーオフを迎えるにあたってはそういったことがないように万全の体制で迎えるということで、臨時駐車場は最大限確保したのとあわせ、先ほどご指摘あった駐車場の有料化ということをさせていただきまして、結果としては概ね高評価をいただいているところではあります。

今シーズンどうするかという話は現在相談中ですが、J2の対戦相手クラブが遠方ばかり

という事もあり来場者数に関しても、現状平均でそこまで大幅な伸びが見えるわけでもございませんので、一旦これまで通り無料での運用というものを予定しております。ただ昨シーズンもそうでしたようにルヴァンカップの試合の進み具合ですとか、もし仮に昇格プレーオフというような話になった際には、通常の水準とは違う来場者が見込まれます。そういった場合には近隣の皆さま、それから来場者の方の安心と安全を確保するためにもう一度有料化の施策というものを検討したいと考えております。

Q.昨シーズンから気になっていたのですが、会場近辺の通信環境が悪いと感じます。チケットを読み込む QR チェックも通信環境が悪く時間がかかりました。ドコモユーザーの方への無料 Wi-Fi 以外に他社を使っている方への対策を教えてください。

A.(事業部篠崎)今おっしゃっていただいた事象はクラブでも確認しております。正直この事象が発生する事に気が付いたのは去年でした。今まで 5,000 人や 6,000 人ぐらいの来場者数の場合ときは若干繋がりにくいかなということはあったんですけども、やはりルヴァンカップで 8,000 人近くご来場いただいたり、9,200 人のご来場があった時に、実際にこれだけの人数がこの場所に集まると、これだけ通信障害が発生してしまうというのを、施設の皆さんであったりとか県であったり認識をしました。その中でまずは NTT ドコモさんの方より、プレーオフの可能性が出てきた中でネット環境の調査をしてくださいました。その結果を受けて、実際に繋がりにくい事象がありますねということになりました。その時点でプレーオフがここで最大 2 試合開催されることが決まりましたので、そのタイミングでドコモさんに相談したところ、臨時の Wi-Fi スポットを作っていただく事になりました。主にスタジアムの部分の周りであったりとか、各ゲートに設置をしていただきまして QR コードを出せないとなったときに何かできないかということやっていたいただきました。もちろんクラブとしても、それ以前にできることとしてチケットを購入していただいた方へはスクリーンショットを事前に撮ってきてくださいなどのご依頼のメールなど、できる限りのことをさせていただいた。また、ドコモさん的には元々カターレ富山がどうということではなくて、この近隣のスタジアムの容量を強化するというのは元々計画としてあったそうです。ですので、タイミングがそこにあったということです。来季はドコモキャリアのデータについては改善が期待されてます。ただ、今おっしゃったようにその他のキャリアの皆さまですが、現状特に何かそこに対して強化をされるという話は、私たちは聞いておりません。というのも、実際その電波のところに関して私たちや富山総合運動公園の皆さまにお伝えをしましても、どうにかなるところではなく最終的にはそのキャリア会社の皆さまがそこにそのデータ通信を強化する事に対してメリットがあるのかという事に繋がってきます。ただ私たちとしてはこういう事象が起きてますよという事はクラブとしても運動公園としても、プラスアルファして自治体の皆さまには事象として今後も共有はしています。まずその声がどう届いて実際にこれから各キャリアの皆さまとか会社の皆さまが判断されてい

くのかというところかなと思います。私どもとしてもできる限りのことはご対応させていただきますが、試合で来場者数が多く見込まれる場合、こういう事象は今後も起こりやすい事が予想されます。申し訳ございませんがご協力をよろしくお願いします。

Q.今年のユニフォームですが、現時点で納期が遅れるということで、それは仕方ないということで理解しております。その後サマーユニフォームの販売もされると思うのですが、そのとき申し込みが想定以上に殺到する可能性がありまた納期が遅れてしまうのではないかと。またその場合、再度通常のユニフォームが買えなくなるのか現時点での対策があれば教えて頂きたいです。

A. (事業部篠崎)まずは今回、ユニフォームの販売の件で私どもの認識が甘く、お客さまにはご迷惑をかけたことを大変申し訳なく思います。申し訳ございませんでした。今のご質問ですとサマーユニフォームの話になると思いますけれども、販売をするところは現在計画をしております。まだ正式な回答はできませんが、サマーユニフォームに関しましては販売数を限定して販売をする予定です。今まででしたら期間中に注文していただければ、お日にちを頂く場合もございますが必ず手元に届くという形をとっておりましたが、現在ゴールドウインさんとともに上限数を決めた部分の生地の方に関しては確保ができるという見込みをしております。またその後の通常ユニフォームに関してですが現状未定の状態です。今ここで最終回答になるかとはなかなか言い切れないんですが、サマーユニフォーム販売後、ゴールドウインさんとしっかりと生産体制を調整をし、販売再開できればと考えておりますのでお待ちいただければと思います。

Q.今治戦の時に臨時駐車場などに警備が少なく駐車方法など混乱が生じました。駐車場などの部分での警備員とかそういう誘導を案内そういうのを増やすことは考えておられますか？

A. (事業部篠崎)警備の件ですが、正直今年は本当に試行錯誤の連続でした。2021シーズンから私が主に運営の指揮をとらせて頂いているのですが、ここ数年は警備の人数を逆に減らしていました。その理由としまして、ここ数年強化費に予算をあてるべく経費をどこで削るかというところになって、熟練の警備員さんがいれば3,000人、4,000人であれば駐車場を回せるだろうという考えがあったからです。ただ昨シーズン6,000人を超える試合が多く出てきました。そうなったときにまず駐車場の数が足りなくなり、臨時駐車場をどんどん増やしていきまして、先ほど出ましたが駐車場の有料化もしましたけれども、警備の方もそれに伴って徐々に増やしていきまして、松本山雅さんとのプレーオフの決勝に関しては、通常の日であれば3,000、4,000人であれば警備員が実際には外回りは13人ぐらいなんですけれど松本山雅戦のプレーオフに関しましては80人前後の警備や臨時駐車場の案内をする

アルバイトを含めて人員をかけました。それぐらいの人員とお金をかけて当日を迎えました。今ご質問いただきました今治戦ではまだ試行錯誤の段階だったので、皆さまにご迷惑をおかけしてしまったと思います。試行錯誤の中で警備員を増やしたり、誘導の方法であったりとかアナウンスの仕方などを徐々にやっていた結果がこの間の松本山雅戦だったのかなと思います。現在、警備会社の方と今シーズンに関しまして打ち合わせをしております、平均値の試合であれば大丈夫だけれども 6,000、7,000、8,000 人が来た試合に限ってはしっかり今年出た反省を生かして、いろいろ考えて参ります。できる限り皆さまに、ご不便をかけないように頑張っていきたいと思います。裏話になりますがプレーオフ松本山雅との試合では警備費用だけで 300 万近くになりました。この額はスタジアムのアルバイト経費などを含めた通常の試合における興行経費と同じぐらいの額です。プレーオフ決勝の試合では普通の試合の 3、4 試合分ぐらいの経費をかけ、1 万人の観客の皆さまを迎えました。この経験を活かし、先ほどから出ていますが 7,000、8,000 人が見込める試合であればこれから先もしっかりとお金をかけて、駐車場であったりシャトルバスであったり、いろいろそうやって皆さまのお客様にご不便をかけないように精進いたします。それに今年はお金をかけてドコモさんに協力して頂いて移動基地局を持ってきてもらうなど、そういう方面でもいろいろとできるのではないかと思います。J 2 という舞台の試合の中でそのような人数の来場者が見込める試合があれば実行していきたいと思います。またそこで見えてくることも勿論あると思いますので、今みたいなご意見をいただければ、その部分を次の試合では改善できるようにと行きたいと思います。皆さまご協力をよろしくお願いいたします。

(社長): 私からもよろしいでしょうか? 警備の話にとどまらずですが、これからカテゴリーが上がり各試合で経費も上がると思います。ルヴァンカップとプレーオフ 5 試合では 8,000 万ぐらいの売り上げがあり、経費が 5,600 万。儲けは 2,400 万です。とても利益率が悪いです。なぜなのかと言うと、今治戦などに入れた警備代や、近隣の駐車場、頭下げてもらってお借りしているのでね。だからなおさら駐車場を増やせよって話なのかと言うと、そうでもないんです。1 万人来るのに 6,000 台臨時駐車場含めて用意しているクラブはありません。フロントスタッフは国交省まで出向き、河川敷を臨時駐車場として貸出していただけるようお願いをして、駐車場が小さいって言われないようにしているのですが、経営的には駐車場を増やせば増やすほど警備の数も増えますし、お金も増えるし、興行利益率がとても低くなります。

他のクラブで僕はずっとやってきて、ここに来たときに驚いたのが、富山県の自家用車の所有率は一家に 1 台じゃなく一人 1 台だと。公共交通機関乗っている人も少ないように見受けられますし、車で来る人を見ていると 1 人乗りが圧倒的に多いですね。

駐車場が増えるのは本当に便利だと思います。ただ 1 万人を入れるのに 6,000 台用意するというのを J 1 に行って、同じことをやっていたら、他にお金を回せなくなってしまうの

です。地铁さんやJRさんにも頑張ってくださいいております。いろいろとクラブ側としてもこれからもやりますけども、いずれにしても、車社会から少しでも脱皮していく1つのきっかけとして、相乗りを促進するという事を私どもとしてお願いをさせていただければなという風に思います。これから先、上のカテゴリーになったときには毎回1万人以上の来場者の方がいらっしゃるかもしれません。駐車場をいかに増やし警備をどう増やして、駐車場のキャパを円滑に運用するかということだけでなく、車を減らすということにもお力をお貸しいただければと思います。



以上で2025 ファン・サポーターカンファレンス終了